

佳作

走れ、リヤカー

真壁 真治

登場人物

尾根高志（男・六十代） 車内生活者
富崎英顕（男・六十代） 路上生活者
十勝マヨ（女・六十代） 公園生活者
山下セイ（女・六十代） 公園生活者
小倉秀志（男・三十代） フリーター
川奈倅一（男・二十代） フリーター

三関蘭（女・二十代） フリーター

国場康熙（男・四十代） 役場職員

玉城清孝（男・二十代） 役場職員

今帰仁小五郎（男・七十代）〔名前だけの登場〕

時 20XX年

場所 沖縄

背景 有刺鉄線の金網フェンス、舞台の端から端まで続いている。フェンスの向こう側は広大な土地（米軍基地）。こちら側はフェンス沿いに歩道が続き、その隣は六車線の国道、その車道を超えて町並みがある。

プロローグ

小倉秀志、川奈倅一、三関蘭の三人が、何か探しものをするように登場。

川奈 ……この辺だったと思うのだけど。

三関 この辺って、……何も無いじゃん。

小倉 川奈のいうこの辺って、その老人を見失った時に、川奈が居た場所を指すのか、それとも、その老人が消えた場所なのか、どっちだ。

川奈 もちろん、この辺りが、老人が消えた場所さ。その老人は俺のずっと先を歩いて居ただけだ。俺がしばらく上空を飛ぶ飛行機に気を取

られていて、視線を前に戻すと、前にいたはずの老人が忽然と消え失せていた。

三関 在り得ないよ、この先ずっとフェンスのある沿道だよ、隠れる場所もないし。

小倉 でなければ、この車道を横断したか。

川奈 そんなの、俺だって考えたよ。でも六車線のこの車道を横断歩道も無しに短時間で渡れるかい。仮に渡ったとしても向こう側の歩道は一目瞭然で見えているのだよ、渡ったならすぐに分かるよ。

三関 でも、ここ道沿いにもいない、向こう側に渡った様子もないとなると、どこに消えたの？

小倉 ミステリーだな。

三関 すごい密室殺人事件だ。

川奈 どこが密室で、どこに殺人がある。

小倉 わかる、わかる。つまり密室からいかにして犯人が消えうせたか、それと同じで、この見渡せる場所からいかにして老人が消え失せたかで、共通している。

川奈 この場合、密室ではなく消失でしょう。

三関 じゃあ、消失殺人事件！

川奈 だから、殺人は無いの！

小倉 消えた老人の謎、という感じかな。

三関 あ、それもいい、この何とかの謎というのも。

川奈 どうでもいいけど、どう思う。

三関 どうでもいいけど、どう思うとは、これいかに？

川奈 どうでもいいのは、この出来事の呼び方。どう思うは消えた老人のこと。

小倉 つまり、お前、川奈倅一がだな、この沿道を歩いていると、前に行く老人の姿があったと。その老人は行く先々でトラブルをおこしている困った老人だと。

川奈 ああ、この老人が書店の女店員を叱りつけて泣かしているのを見たことがある。

三関 どうして？

川奈 女店員のいいかげんなあしらいに腹を立てていた。

三関 小娘に軽くあしらわれるのが、気にいらなわけだ。

川奈 俺もコンビニでバイトをしていた時、対応が気に障ったらしく、この老人は突然怒り出し、

今帰仁小五郎と名乗って、『ちったあ、知られた名よ』と啖呵を切っていた。

三関 今帰仁小五郎？ 何か有名な人？

川奈 もと、活動家で、日本のために闘ったそうさ。

三関 日本のために闘った？ 太平洋戦争で戦ったの、すると凄い年寄だけど。

小倉 違う、違う。活動家だからゲバルトのことだろう。

三関 何？ ゲバルトって。

小倉 反体制の実力闘争だか、今でいうと、テロかな。

三関 テロリストなの、その爺さん。

小倉 その頃は確か、過激派と呼んでいたな。

川奈 ああ、聞いたことがあるような。

小倉 ……さて、相手がそういう老人だとすると、

消えた謎がわかる気がする。

川奈 え？

三関 本当？

川奈 老人が元活動家の闘士だと、

三関 消えた謎がわかるの？

小倉 まあ、体制というものに囚われないというか、

つまり規則というものに縛られないという
か、……つまり、……盲点かもしれないな。

(暗転)

1

前景と同じ、山下セイがリヤカーを引きながら登場、リヤカーには

拾い集めた空き缶やら、古紙が積まれている。セイを追いかけるように役場職員の国場康熙、玉城清孝が登場。

国場 ねえ、山下さん。そろそろ退去の日取りを決めて欲しいんですけど。

山下 セイだよ。

国場 はい？

山下 セイという名だ、みんなからおセイと呼ばれている。

国場 はい、じゃあ、おセイさん。

リヤカーを止めて、腰を下ろす。

国場 何が不満なのですか。何度もいいいますが、移

転先には各人が寝泊まりできる部屋がありませんし、共同ですけどキッチンも風呂場も用意してあります。

山下 山の中だろう、調子の良いこと言って、姥捨て山と噂しているよ。

その言葉に玉城が口を押えて笑い、国場が笑った。玉城を睨みつける。

国場 そりゃあ、少しは街から離れているけど、他に空いている土地無いもの。でもこれから先、寒さは防げるし。

山下 寒さ？

国場 確かに今、地球温暖化で冬だというの暑いく

らいだけど。

玉城 だから今、この沖縄で環境サミットが開かれて、世界的にこの温暖化を対処しようとしているわけさ、セイさん。

山下 やっぱり何かい、その環境サミットのおかげで、私ら公園生活者は一掃されなければいけないの。

玉城 まあ、そうだなあ。

国場 (慌てて) 何を言っているのです。そもそも公園で寝泊まりしてはいけません。

山下 それにしても、突然二月いっぱい退去せよと、看板まで立てて。やっぱり、環境サミットのせいだ。

国場 (開き直って) ええ、そうですよ、その通りですよ。環境サミットを開催する県の公園が、ホームレスのたまり場では、世界中から集まるマスコミに恥さらしです。……でもとにかく住居を無料で提供しようというのです、そこに仲間同士移転してもらいます。

玉城 まあ、お上には昔から勝てないって、おセイさんから公園のみんなに説得してくれないかなあ。

国場 移転の引っ越し祝いに、泡盛を何本か用意するから、な、な、みんなで気持ち良く、移動の際はバスも準備するから。

玉城 よろしくお願いします。

国場 よろしくね。(立ち去りながら)……頼みますよ。

国場と玉城、退場。しばらくしてマヨ登場。

十勝 (去りゆく二人を見ながら) 今の、役場の奴らじゃない？ 何か言われた？

山下 マヨさんかい。環境サミットのせいで私ら邪魔みたいよ。

十勝 ああ、でも、私らの存在は景観の問題はあるかも知れないけど、環境とは関係無いと思うけど。

山下 だから、体裁の問題よ。移転の話、あんたはどう思う。

十勝 よしてくれよ。トタンのプレハブで施設は無料といっても所詮は役所の公共物、何かと管

理しなければいけないの、この管理というのがね。

山下 でも、管理者はその施設を利用している者の中から選ぶそうだよ。

十勝 そう、選ばれた者は必ず権力が付随する。そして人間、権力を持つと必ずそれを利用する。面倒な共同体が出来上がる。

山下 そうよねえ。私たちはただ自由気ままに居たいのよねえ。

十勝 だから、だからあんた、施設が嫌なら、今帰仁さんの話に乗ってみない。

山下 今帰仁って、今帰仁小五郎という、喧嘩ばかりしている、あの爺さんのこと。

十勝 そう、その爺さんが公園生活者を全員引き連

れて脱出する話。

山下 ああ、……そういえば。

十勝 面白いじゃない。小五郎爺さんって、確かに変わっているし偏屈だけど、ただ 者じゃないという雰囲気があるし。あの 長い髭といい、モーゼみたいだし。

山下 モーゼ？

十勝 『十戒』のモーゼよ、映画観なかった。私たちみんなを聖地に案内してくれるそうよ。

山下 聖地？ モーゼとか聖地とか、爺さんは、キリスト教なの？

十勝 それは違うと思うけど、それにモーゼも聖地も譬えよ。

山下 それで、その聖地というのはどこにあるの。

十勝 それが教えてくれないのよ、行つてのお楽しみとか、もったいぶっているのよ。

山下 聖地ねえ。ユートピア？ 理想郷？ ニライ・カナイ？ あつたらいいわねえ、そんなところ。

十勝 物は試しでいいじゃない。早速だけど、明日夜明けと共に出発よ。

山下 明日！ なんでそんな急な、役所の期限は二月いっぱいなの。

十勝 爺さんが言うには、強制退去は突然にやってくるのとみているのよ。我々が分散しないうちに、一網打尽を狙つて。

山下 なるほど、体制側が考えそうなことだ。

十勝 でしょう。

山下 あの爺さん、私たちをどこに導いてくれるのかしら。

十勝 だから、聖地だって。

山下 だから聖地ってどこなの？

十勝 彼岸の向こう、あちら側とこちら側があって、あちら側だそうよ。

山下 何、それ？

十勝 さあ？

(溶暗)

2

明るくなると、同じ背景で尾根高志と富崎英顕がいる。

尾根 本当なのですか。

富崎 ああ。

尾根 でも、そんなことって、あるのでしょうか？

富崎 浮浪者が集団で忽然と消えてしまったそう
だ。

尾根 浮浪者ですか？

富崎 本人達は、公園生活者と名乗っていたそうだが。

尾根 公園生活者？

富崎 ようは、ホームレスだろう。

尾根 富崎さんは、路上生活者と名乗っていますね。

富崎 そういうおまえさんは、車に寝泊まりしている。

尾根 そうですね、さしあたり、私は車内生活者ですかね。

富崎 あんたは、人間関係のくちかい？

尾根 はい？

富崎 人間関係が苦手とか、うつ病がどうのこうのというやつ。それで会社を辞めたとか首になつたという奴。

尾根 いえ、リストラです。

富崎 ということは、自身の問題ではないわけだ。だったら、仕事は何か見つけられただろう。

尾根 東京の企業でリストラにあいまして、リストラされた元同僚たちとベンチャー企業を、ここ沖縄で立ち上げたのです。それが結局うま

くいかず、ちよつとやばい方法で金をかき集めたものだから。

富崎 逃げ出したか。

尾根 はい。

富崎 住んでいた、アパートだとか、借金取りが来て、帰るにも帰れず、か。

尾根 はい。

富崎 車で逃げ回り、車で寝泊まりしているうちに、この車内生活になじんでしまったと。

尾根 ……何か、よく御存じで。

富崎 家族はどうした。

尾根 沖縄には単身で来ていますし、娘二人は東京に居たときに嫁に行っていますし、家内は亡

くなっていますから。

富崎 父親がこういう暮らしをしていることは、娘には知らせてないと。

尾根 ……まあ…。

富崎 何故、娘を頼らない。

尾根 ……今は、まだ…。

富崎 ふん、やせ我慢か。……きつと持っている財布の中に、娘の連絡先を書いたメモがあり、野垂れ死にした際にはそれを握りしめて果てるのだろうか。

尾根 ……あなたは、なかなかの毒舌家でいらっしやる。

富崎 どういたしまして。……それで、今は行方知

尾根 らずの消息不明の風来坊か。

あなたも、そうなのではないのですか、しかもかなり年季の入った。

富崎 遠慮することはないよ、はっきり言えよ。

……逃亡者だよ。

尾根 ……。

富崎 騒乱指揮助成罪、凶器準備集合罪、威力業務妨害罪、それと火炎瓶使用等処罰罪とかのわけのわからないものもあったな、火炎瓶は爆発物取締法では適用できないので慌てて作った法令だ。その他にも、……まあ、いろいろだ、よくわからんが、どれも、とつくに時効だと思うが。

尾根 やはり、学生運動の元活動家ですか。

富崎 失礼な、まだ現役、現役の活動家だ。忘れられた活動家だがな。今沖縄米軍基地反対運動の闘士だ。基地のフェンスと路肩の間に段ボールハウスを作って暮らしている。何度も撤去されたが、意地でもフェンスに張り付いて生きている。

尾根 像にたかる虻、みたいなものですね。

富崎 ふん、毒舌のお返しか。

尾根 いえ、さすがだと思います。

富崎 あんた、俺を知っている口ぶりだな。

尾根 ええ、富崎英頭。あなたの指揮する通称トミケン一派と呼ばれる武闘派は、薩摩示現流ばりに一発必中角材打ち込みで新宿の機動隊を

撤退させたことで有名でしたね。

富崎 まさか、あんた後輩かい？

尾根 恥ずかしながら、活動家を返上して就職した人間です。

富崎 ああ、そうかい。俺もそういう奴らは転んだ奴らと軽蔑したものだ、今は、もう、こだわりはない。

尾根 そうですか。

富崎 気にするな、別の意味であんたらも今度は企業戦士として戦った。日本は豊かになり、金持ちになった。

尾根 それが、今はこのざまです。バブルで笑い続け、人生の後半は、はじけて不況に突入、リ

ストラで負け組です。

富崎 ふん何が負け組だ。今まで散々いい思いをした果てでの負けじゃないか。敗北しか知らない俺と一緒にするな。俺の活動家の仲間たちはみんな警察に逮捕されている。俺だけが今も逃げ延びている、仲間内で俺のことを、逃げ足の速い逃げケンと呼ばれている。

尾根 いえ、ポリシーを全うしている富崎さんには、頭が下がります。

富崎 よしてくれ。でもさっきの話だが、愉快的話だ。

尾根 話というと。

富崎 公園生活者の集団が、強制退去の前に全員が消えた話だ。

尾根 ああ、本当なのですね。

富崎 事実、その公園にホームレスは一人も残っちゃいない。

尾根 全員ばらばらに逃げたと？

富崎 いや、集団でまとまって移動中なのは目撃されている。役場や協力を依頼された警察がパトカーで駆けつけるも、どこを捜しても見つからなかったという。

尾根 それは……。

富崎 体制に鼻を明かした、痛快な話さ。パトカーがサイレンを鳴らして右往左往する中、ホームレスの集団が、忽然と消えてしまったようだ。

(暗転)

同じ背景、公園生活者による集団移動。マヨとセイを除き登場人物全員（二役）による。集団移動で最後尾にマヨとセイがいる。

セイ（リヤカーを引きながら）。結局、全員が爺さんの後に付いて来たけど。

マヨ みんな最初は半信半疑だったのに、取り残こされるのが嫌なのね。

セイ あれ、先頭の爺さん止まったみたい。（実際は見えない、集団の先）

マヨ もう着いたの？　ここ、何も無い所よ。

セイ いやこの先には、米軍基地のゲートがある。

マヨ まさか、米軍基地が目的地じゃないよね。

セイ でも、ゲートの守衛みたいのと何かはなしかけてるし、あの爺さん。

マヨ ありえない。米軍基地に入る交渉？

遠くからパトカーのサイレンの音。

マヨ あれ、パトカーのサイレン？

セイ 私たちのこと、捜している？

マヨ まずくない？

セイ まずいでしょう。

マヨ やはり映画『十戒』だわ。

セイ 何のこと？

マヨ 民が脱出しようとする、権力者が追いかけて来るの。

セイ ちよつと、どうするのよ。

マヨ するとモーゼが奇跡を起こすの。

セイ 奇跡？

マヨ 海が割れて、開いて、私たちを通す。

セイ 海？ 割れて？ 開いて？

マヨ 見て！ ゲートが、門が、開いていく。

公園生活者集団が『おお』と、どよめく。

セイ 先頭の集団がゲートの中へ入っていく。

マヨ 奇跡だわ。

セイ 行こう！ 私たちも。

公園生活者の集団は去り。ゲートの閉まる音。やがて大きくなるパトカーのサイレン。

(暗転)

4

背景そのまま、小倉秀志、川奈倅一、三関蘭がいる。

小倉 沖縄にとっては、まあ、大概の地元の人にとつても、もの心ついた時分から、米軍基地の金

網フェンスは存在していた。

川奈 そうでしょうな。

小倉 つまり、あまりに見慣れた光景で気が付かないが、今帰仁小五郎というその爺さん。この金網フェンスを越えたと思う。

三関 越えるって、あんな年寄が？

小倉 超えるというのは例えだよ、フェンスの下から穴を掘って中に入ったと思う。もちろん入口は何かで隠して。

川奈 そういえば、この金網の向こう側ってどうなっていたわけ？

小倉 とつくに米軍基地は移転している、というか移転の途中じゃないか。

川奈 いや、米軍の移転は済んだのだけど、その後、基地内の土地から、枯葉剤などの危険物質とかが発見されて、米軍移転後もフェンスの中へは入れなかった。何人も立ち入り禁止だ。

小倉 なんせ日本政府は米軍の移転だけでも膨大な費用を使ったし、移転先でもこれこれまた膨大な費用を使ったし、これからも移転後の跡地を整備洗浄するのにさらに莫大な費用がかかるし、その跡地を利用するにもまたまた膨大な費用が掛かる。さすがに今、日本政府にそうそう金を出せない。

川奈 借金王国だよな、日本政府は。

小倉 国がそうだから、遅々として基地跡の整備は

進まない。

川奈 そうか、フェンスの中に侵入すると米兵に撃ち殺されても文句は言えない、治外法権だし。そう固定観念で思っていたが、今この中は、ただの空き地なんだ。

小倉 ああ、目の前に広大な無人の土地がある。

三関 すげえ！

川奈 気が付かなかった。

三人、じっとフェンスの中を見つめる。

小倉 そそられるな。

三関 うん、入ってみたい。

川奈 爺さんの掘った穴を探そう。

小倉 その必要はない。

川奈 えっ？

三関 馬鹿だねえ倅一は、俺たちで改めて穴を掘ればいいじゃん。

小倉 その必要もない。

三関 えっ？

小倉 この金網を切り取ろう。

川奈 おお！ 大胆な、でもそんなことをすると、器物破損罪ですけど。

小倉 堂々とやろう、俺のバイト先の現場から道具借りておくから、作業着に身を包み堂々と切り取り侵入しよう。

三関 面白ーい！

小倉 金網切り取ったら、ドア形式にして、鎖で巻いて南京錠を付け、俺らだけの出入り口になる。

三関 あぜーん。

川奈 そうだよな、フェンスの中にいる人なんて、眼に映っても、誰も特に気をかけないよな。今までがそうだったから。

小倉 そういうこと。

(暗転)

5

背景フェンスの前で舞台左右からマヨとセイ登

場、セイはリヤカーを引いている。

山下 ハイタイ。

十勝 ハイタイ。

山下 マヨさんも、沖縄の挨拶が様になって来たね。

十勝 おかげさまで。

山下 もう帰るの、どこから入る？

十勝 西口三番トンネルかな、おセイさんは？

山下 私はこれ（リヤカーを指す）があるから、ゲートから。

十勝 そうなの、今や出入り口はいくつも作られているのに。

山下 みんなトンネルでしょう。リヤカーでトンネ

ルは潜れないし。

十勝 それが最近だけど、あるそうよ。トンネルではなく、フェンスの金網を開いて通れるところが。

山下 どうせ、通行料を取るんでしょう。

十勝 それが、何か若い子が管理していて、いちいち通行料を取るのではなく、鎖に掛けられた南京錠を外す鍵を売っているそうよ。だからその鍵さへ買えば、何度だろうと出入り自由なわけ。

山下 これ（リヤカーを指す）通ると思う？

十勝 大丈夫よ。

山下 それはいいことを聞いた、で、その場所は？

十勝 ここから近いよ。八番トンネルの次あたり。

山下 最近やたら増えたわね、出入り口。

十勝 全く。

山下 あっ！ 今対向車線を通った車、役場の車だわ。

十勝 役場の車って、あの環境対策の電気自動車。

山下 やだあ、助手席の国場って奴と目が合ったわ、きっとUターンしてこっちに来るわよ。

十勝 この58号線をUターンするとなると、ずいぶん先ね。

山下 まあ、逃げる筋合いはないが、会いたくは無いわね。

十勝 だから、さっき言った、金網を開く出入り口、そこへ行きましょう。

山下 だって、鍵かかっているのでしょう。

十勝 たかが南京錠くらい、ピッキングでわけないわよ。

山下 ピッキングって？

十勝 いいから、いいから、いきましよう。

二人退場、その後、役場職員二人登場。

国場 どこだ、あの女ども、どこへ行った？

玉城 いや、このあたりでは、ないかと思えますけど。

国場 何で、停車に手間取るんだよ。その辺どこでも止めろよ。

玉城 そうはいきませんよ、この辺は駐停車禁止だし、車の通行は多いし。

国場 とのかくだ、あのリヤカー女はどこへ行った。

玉城 そういう言い方はやめましよう、山下セイさ

んですよ。

国場 それと、もう一人いたな。

玉城 十勝マヨさんです。それに彼女たちのことは、もういいじゃありませんか、公園から退去してくれましたから。

国場 それで済むことではないの。どこへ消えたか把握するのも仕事なの。

玉城 確かに行先は気になりますね。

国場 それに収容するホームレス対策施設に誰も入ってないと困るの。

玉城 私は独身だし、その施設に私住みましようか。

国場 面白くない冗談だね。

突然、国場はフェンスの金網を掴む。

国場 何だ、あれは？

玉城 何です？

国場 あのリヤカーみたいなものを引いている人影は、何だ？

玉城 リヤカーみたいではなく、リヤカーです。

国場 奴らか、あの女たちか。

玉城 二人いますから、……そうみたいですわね。

国場 何で奴らが、米軍基地の中に居る？

玉城 元です、元米軍海兵隊施設です。

国場 ここは立ち入り禁止地区だろう。

玉城 もちろんです、そもそも侵入できないように

有刺鉄線のフェンスがあります。

国場 どうやって中へ入れた、しかもリヤカーまで？

玉城 さ、さー？

(幕)

ここから背景の有刺鉄線のフェンスが逆向きになる。フェンスの内側、つまり基地の中での展開。尾根高志、富崎英頭が登場、二人とも服に付いた泥を落としながらの会話。

尾根 映画『大脱走』みたいですわね。

富崎 ダイエットしない奴はお断りのトンネルだ。

尾根 しかし、驚きましたね。

富崎 全くだ。

尾根 基地の中に入るといふ発想もすごいですが、すでに中で生活しているのですから。

富崎 ああ、言い忘れていたが、トンネルはここだけじゃないんだ。

尾根 まだ、あるんですか。

富崎 まだどころか、今ではいくつあるのか、わからないぐらいだ。

尾根 えー！ でも言われてみれば、基地の周辺って何百キロもありますから、出入り口も多くないと。

宮崎 統一せんといけないかも、小さな穴は、塞いだ方がいい、危ないから。その代りちゃんと

した、板で補強した頑丈な穴を効率よく東西南北に作るべきだな。

尾根 誰が？

富崎 誰でもいいだろう。

尾根 富崎さん。トミケンの異名を持つ全共闘の指導者だったあなたが、あなたのほかに誰が適任だというのです。あなたが、中に居るホームレスをまとめて、暮らし良くするために指導してください。

富崎 持ち上げるな、お前がやってもかまわないだろう。

尾根 私は車がないと暮らせませんし、車はこの中に入れないでしょう。

富崎 堂々と車でゲートを通ればいい。

尾根 ゲート？

富崎 前に話した、公園生活者の集団脱出があったろう。

尾根 ええ。

富崎 モーセみたいな髭を生やした爺さんが、みんなをこの場所に導いた。

尾根 守衛もいたゲートを通り抜けた、でもどうして通り抜けられたのです？

富崎 米軍の基地の時代から、ゲートには銃を持った守衛はいた。

尾根 ゲートのチェックは厳しかった。

富崎 しかし、今、米軍は移転しているのになんで守衛がいる。

尾根 だから、市が管理している？

富崎 だから、ただの空き地を何で守衛を立てる。

尾根 はて？

富崎 その守衛は守衛でも何でもない、勝手に銃を壊して中に入り、昔のガードマン時代の制服に身を包み、守衛室に寝泊まりし、守衛のまね事をしている、ただのホームレスなんだ。

尾根 なんと！

富崎 それで、中に入りたい奴と交渉して、通行料をもらい、小銭を稼いでいる。

尾根 でも、出入り口は他にもトンネルがあるし、他では無料なんでしょう。

富崎 だから、多人数や、大きな荷物を抱える人たち専用の出入り口になっている。

尾根 なるほど、ずるいと言えば、ずるいな。

富崎 何を言っている、立派なベンチャーだ。

尾根 わかりました、わたしも車をそこから通して
もらいましょう。

富崎 だけど車で寝泊まりする必要はないぞ。中には
体育館の何倍もある広さの航空機の格納庫
がある。中はもぬけの空でみんなそこに住ん
でいる。

尾根 屋根付きの家ですか。

富崎 そうだ、笑えるよ。俺たちホームレスが、ど
んな金持ちより広い家に住むんだ。

尾根 家どころか、外は元飛行場ですから、どんな金
持ちでも持ちえない広大な敷地じゃないですか。

富崎 そうだ、それにあちこちを掘り起こすと鉄の

スクラップが見つかったな、宝の山なんだ。

尾根 へえ。

富崎 ところが見つかるのは、宝だけとはかぎらない。

尾根 なんです？

富崎 なにやら得体のしれない、何かが詰まったド
ラム缶がいくつも出てきたという。

尾根 そ、それは、危ないですね。

富崎 ああ、ここの土地は汚染されているというし。

尾根 そうですね、ここには一般人というか、普通
の人は敬遠して入らないでしょう。

富崎 だがしかし、ここは俺たちの、ホームレスの、
居場所がない者の、行き場所のない者の新し

い移住地だ。街の中に忽然と現われた巨大な
開拓地だ。俺たちみたいな奴らがどんどん入
り込んで来てみる、ここは俺たちのユートピ
アになる。俺たちの村だ、俺たちの国だ、俺
たちの聖地だ。

7

(暗転)

リヤカーに鉄のスクラップを載せて、小倉と川奈、
三関が搬送している。それを通りがかりの富崎が
見かける。

富崎 おお何だ、スクラップか。売りに行くのか。

小倉 (リヤカーを止め、休みながら) いいえ、売
りませんよ。

富崎 売らない？ どうして、いい値段するだろうに。

三関 組み立てるの。

富崎 組み立てる？ 何を？

川奈 わからないけど。

富崎 わからないって。

小倉 組み立ててみないと、ほんとうにわからな
いのですよ。

三関 ジグソーパズルよ。

富崎 うーん、……話が見えない。

小倉 つまり、ここにあるスクラップって、ほとん
ど軍需用品を解体したものなんです。

川奈 軍需用品だと、そのままの形状で捨てるわけ

にはいかないから、みんな一応解体して捨てている。

小倉 一応ということは、解体の仕方がそれほど徹

底していなくてですね。

三関 で、復元も可能だと。

川奈 つまり、元の形体に戻せるわけです。

小倉 時間と手間はかかりますが、遊びですから。

富崎 ははー？ わかるような、わからないような。

要するに組み立てるとなにかできるんだ。

三関 だから、それは組み立てないと、わからないって。

富崎 だけど軍需用品って言ったじゃないか、何か

を予想して組み立てているんだろう。

小倉 ああ、いろいろ。

富崎 たとえば。

川奈 小さいのだと短銃やライフル銃。

富崎 短銃？ ライフル銃？

川奈 銃というものは元々分解できるものだから、

それに数も多いし同種のものも多いから、

わりと簡単に組み立てられる。

富崎 ほんとかよ。

川奈 大きいのだと、ロケット弾とか、

富崎 ロケット弾？

三関 巡航ミサイルとか、

富崎 巡航ミサイル！

小倉 ああ、勘違いしないでね。爆弾といつても

中身のない、外見だけの張りぼてだから。

川奈 爆弾にも使用期限というのがあるようです。

だから古いのは定期的に解体処分する。信管を取り外し、爆薬を抜き、外見もばらばらにしてスクラップです。

三関 信管や爆薬はさすがに捨てないけど、ミサイルの外見だけは、ばらばらに捨てられる、だから外見だけ再現できる。

川奈 銃火器もこまめに手入れしないと危ないのです、だから古いのは安全のために捨てられる。

小倉 そんな、解体されて捨てられたスクラップが、ここには山とあります。

富崎 すごい、いったいどこで組み立てるんだ。

小倉 格納庫の奥にある倉庫だけだ。

川奈 倉庫といっても普通の倉庫じゃないですよ、

航空機の修理に使われたと思う倉庫だけだ。

三関 面白いぜ。これも捨てられたものだけだ機械工具や道具はいっぱいあるし、どんな大きな物でも組み立てられるスペースはあるし。

富崎 どんな大きな物って、ミサイルより大きな物があるのか？

川奈 今はまだ途中だけど、装甲車とか水陸両用車とか、戦車とか。

富崎 装甲車！ 水陸両用車！ 戦車！

川奈 あと戦闘機を組み立てられたら、すごくうれしいけど。

小倉 (絶叫) 戦闘機！ F14戦闘機のことか。

川奈 まさか、古い型の戦闘機ですよ。

三関 でも古い型の方が、マニア受けするし、沖縄戦の頃のプロペラ機が掘れば出てくるといいな。

富崎 そんなものが、出てくるのか。

三関 出ているよ、解体していない壊れ錆びついた戦車がそのまま掘り出されたことがある。

富崎 まさか！

小倉 ちよつと、富崎さんだったかな。この場所はまさに沖縄戦の戦場だった場所ですよ。米軍は沖縄戦の最中に滑走路を作った、それがそのまま現在まで米軍基地の飛行場になっている。だからこの地面の下は、まだ手付かずにの戦場が残っている、そう思いませんか。

富崎 (頷く) そうだったな。ここはかつてアメリカ

力だった。日本でありながら、沖縄でありながら、立ち入り不可のアメリカだった。そしてその前は沖縄戦の戦場だった。(屈んで地面に手を触れ) この滑走路の下には、戦場で散った遺骨や遺品も、まだ眠っている。

(暗転)

十勝マヨと山下セイ、二人して鍬を持ち畑を耕している。小倉、川奈、三関がリヤカーを引いて登場。

三関 セイおばちゃん、リヤカー、ありがとう、返しに来たよ。

山下 タマゴちゃんか、あのね、おばちゃんはいらないから、セイと呼んでくれない。

十勝 私もマヨね。おばちゃん抜き。

三関 私の名前も、タマゴじゃなくて、蘭（らん）というけど。

山下 あら、タマゴが可愛いよ。

川奈 あもう、セイさん、マヨさん。ここで農作物を作るのはまずくないですか。

山下 あら、私の作る野菜がまずいというの。

川奈 いや、そうではなく、この基地の土地は土壌汚染があるそうです、だからここで取れる作

物は有害だと思えますけど。

山下 何言っているの、米軍基地という、破壊するだけで何の生産性もない土地から、初めて生まれた生産物よ。ありがたい作物じゃないの。それに、こうして畑をつくると、作物が自然に土地を浄化してくれものよ。

川奈 そう？ そんなものですか。

小倉 面白いですね。セイさんやマヨさんだけでなく、ここに居る御老人たちは、反骨精神が旺盛ですね。

三関 なんでも、御老人たちは役所がただで住家を提供してくれるというのに、それを蹴って、ここに住んでいると聞いているよ。

川奈 俺なんか、ただでくれるなら、何でももらうけどな。

小倉 若い人たちの反抗心は、面倒臭いことを避けている、難儀を避けているだけのことなんだけど。でもここにいる御老人たちの反骨精神は、あえて面倒をいとわない、受けて立つという気概が感じられる。

山下 おや、そうかい。

十勝 わしらの世代の性分かねえ。

そこへ、動揺した尾根高志、登場。

尾根 (戸惑いながら) 十勝マヨさんって方は、い

ますか？

十勝 私だよ。

尾根 小五郎さん。今帰仁小五郎さんをご存じですよね。

十勝 ああ、小五郎爺さんが、また何かしでかした？

尾根 部屋を……といっても段ボールハウスですけど、訪ねてみたのです。ここでは有名な方ですから。一度会ってみたくて声をかけたのですが、返事が無く、……寝床で……お亡くなりになっているようです。

十勝 なんですって！

(暗転)

今帰仁小五郎の墓らしき土の盛り上がり。尾根、
富崎、マヨ、セイが佇む。セイのリヤカーもある。
シヨベルなどが乗っている。

尾根 こんな簡単な墓で、いいですかね。

十勝 名前を書いた札でも立てます？

富崎 それより何か爺さんを象徴する様な物でも置
きたいな。墓の印として。

十勝 象徴というなら、おセイさんなら、そのリヤカーね。

山下 いえている。私が死んだら、このリヤカーを
私の墓に置き、花を飾っておくれ。

尾根 でも、このリヤカー、便利ですね。爺さんも

このリヤカーで運べたし。

山下 全く、私のリヤカーで葬儀なんて。

尾根 おかげで、リヤカーの後をみんなが付いてき
て長い列ができ、葬送行進ができた。ある意
味盛大な葬儀といえる。

十勝 棺桶を段ボールで作ったのは、どうかと思うけど。

富崎 いや、段ボールは爺さんを象徴している。

尾根 では爺さんの墓には段ボールハウスかな。

富崎 いえている、屋根のある格納庫に居るのに、
その格納庫の中でわざわざ段ボールを組み立
てて住んでいた。

尾根 でもそういう人、多いですよね。

富崎 悲しい性だね。狭い段ボールの中が結局、一番落ち着く場所だと。

十勝 小五郎爺さん、いつも寢床で胸をかきむしって苦しんでいたのをよく見かけた。何度も病院に行くことを進めたけど。

山下 病院はみんな怖がっている。病気とわかっても金銭面でどうしようもない。死と現実直面させられるからね。

尾根 あおう、知っていますか？小五郎爺さんの、寢床の段ボールの壁に、小さく文字が記されていたことを。

富崎 何だ？

十勝 落書き？

尾根 いえ、たぶん死ぬ間際に書いたのではないかと。

十勝 遺言？

尾根 というか、一言ですよ。

山下 辞世の句。

尾根 そんなたいそうなものではないですが。でも、まあ、それに近いかな。

富崎 なんて書いてあった。

尾根 ミミズがのたうつ様な文字で。爺さん、苦しさをなかで書いたのではないかと。

富崎 だから、何と書いてあった。

尾根 『俺を見くびるな』

(一同沈黙・間)

尾根 『俺を見くびるな』……と。

(一同沈黙・間)

富崎 誰一人看取る人がいない段ボールの中で、苦しみ、のた打ち回って、最後に言いたいことが、それか。

尾根 爺さんは、かつてはコザ反米騒動や沖縄復帰運動の活動家だそうです。富崎さん、あなたの、活動家としての先輩です。

富崎 よしわかった。爺さんは全共闘の闘士だ。ならば、この墓にはゲバ棒とヘルメットと顔を

隠すタオルの闘争三種の神器がふさわしい。ゲバ棒には碑銘として『俺を見くびるな』と記そう。そしてそれを、卒塔婆のように建てよう。

十勝 ああ、ヘルメットなら、小倉という若い者が、いっぱい拾ったと言っていた。

富崎 よし三種の神器をそろえよう。

尾根 私も行きます。

尾根と富崎、退場。見送るマヨとセイ。

山下 しかし、いいのかねえ。

十勝 何が？

山下 勝手に埋葬してさ。

十勝 どうして？

山下 いや、家族とか血縁への連絡も無しに、という意味だけど。

十勝 ふん、どんなにその人と親しくしても、他人は血筋にかなわない。手術の承諾も葬儀も、病中の本人の意向も、すべて身近な友人より、今まで一度も顔を合わせたことのない遠い親戚が決定権を持つ。

山下 そうなのよね。

十勝 大丈夫、私らが埋葬してやるべきだ。嫌々ながら仕方なく引き取りに来る爺さんの親戚より、私らが、どこの誰よりも爺さんを思っ

ている。私らは爺さんを決して見くびりはしない。

山下 そうね。

十勝 それと、みんな爺さんの言い残した言葉を誤解している。

山下 誤解？

十勝 爺さんの言葉『俺を見くびるな』を、爺さんの最後まで意地とか見栄だと解釈している。

山下 違うの？

十勝 違うと思う。

山下 じゃあ、何なの

十勝 孤独死というのがあ。一人暮らしの人間が一人ひっそりと死ぬことは、それだけで不幸と決めつける。

山下 ……。

十勝 小五郎爺さんは、自分の今の境遇を不幸だとは思っていない。それをどんなに主張しても人は憐みの目で見ると、そのことが我慢できなかった。爺さんの孤独死を、その結果だけを見て憐れむなど、『俺を見くびるな』とは、爺さんの意地でも見栄でもなく、俺は何も後悔していないという本音だと思う。

山下 ふ〜ん。

そこへ、国場と玉城が上着に付いた泥を落としながら登場。

玉城 ほらやっぱり、トンネルで抜けられたじゃないですか。

国場 ペっ、ペっ、ペっ。口に泥が入った。

玉城 あっ！ マヨさんたち。

国場 いたのか、こんな所に、こんなに近くに、……といってもフェンスの中かい。この中に隠れるのは、インチキだ、ルール違反だ、想定外だ。

十勝 何を言っているの、この人？

山下 さあー。

国場 あのなあ、このフェンスの内側は、米軍の治外法権、沖縄であって沖縄ではない、沖縄であってアメリカなんだ……。

玉城 先輩、何を言っているんですか、落ち着いて下さい。

国場 そ、そうだな。ん？ この土の山盛りは何だ？

山下 今帰仁小五郎さんのお墓です。

玉城 ええ、今帰仁さんの！

国場 爺さん、亡くなったのかい。

十勝 誰にも看取られず、一人、ひっそりとお亡くなりになりました。

国場 そうかい。（国場、思わず墓に手を合わせる、

玉城も慌てて、それにならって手を合わせる。）

国場 小五郎爺さんと言えば、よく役場に陳情に来たね。

玉城 よく喧嘩しましたね。国場康熙対今帰仁小五

郎の大声での口論は、生活安全課の名物でしたから。

国場 少し時代錯誤だが、少なくとも本人個人のことではなく、ホームレスを代表しての苦情であつた。

玉城 亡くなってからこういうのもなんですけど、なかなか気骨のある爺さんでしたね。

国場 ……あれ？ 爺さんのお墓って、何を埋めたの？

十勝 もちろん、御遺体です。

国場 ……護遺体？ 遺体を勝手に埋めたの。

十勝 丁重に。

国場 役場への届け出は、病院へは、そもそも検死はどうした。

山下 ここは治外法権と言ったのは、あなた方です。

国場 何が！ 死体遺棄じゃないかよ。

玉城 まずいですね、刑事事件になりかねません。

国場 どうして亡くなったのか、死因も確かめないので、あなたたちは、もう。

玉城 掘り出してみることになりますね。

十勝 冗談じゃない！

山下 この罰当たりが！

国場 罰当たりはお前らの方だろうが。

玉城 それに、こうして見渡すと、問題はいっぱいありそうです。ここから何か勝手に持ち出しているし、いろいろ持ち込んでもある。

国場 まずいどころか、ここに何人のホームレスが

住みついている。何十人か何百人か、とんでもない社会問題になる、マスコミも騒ぐぞ。

玉城 いったん引き揚げて、報告しましょう。

十勝 待ってくれよ。ここはこの小五郎爺さんが導き、手に入れた私たちの安住の土地なんだよ。

山下 お願いだからほっといてくれよ。どうせ米軍が捨てた土地じゃないか。

国場 何が捨てただ、米軍は返したんだよ。

十勝 米軍が占有していたのでしよう、それを日本政府が黙認して、『思いやり予算』も出して。今度は私たちが占有するから、黙認して、ついでに『思いやり予算』も出してよ。

山下 私たちに出す『思いやり予算』は、それでこ

そ本当の意味での思いやり予算になる。

国場 ……うくん、何か説得力があるな。

玉城 何を言っているのです先輩、早く戻りましょう。

二人舞台左側から去ろうとすると、ヘルメットにタオルで顔をかくし、角材を持った尾根と富崎が登場し二人を遮る。

国場 何だ、お前たちは。

玉城 どいて下さい。

国場と玉城は恐れをなし、反対方向の右側から去ろうとする。そこへ、同じヘルメットとタオルで

顔をかくし角材を持った小倉、川奈、三関に遮られる。取り囲まれる二人。

富崎 悪いが、二人とも、ここから出す訳にはいかない。

(暗転)

前景と同じ。土の盛り上がりには今帰仁小五郎の墓として、ゲバ棒が建てられ、ヘルメットが棒の先にかけられ、ヘルメットの結び紐にはタオルがかけられ、ゲバ棒には『俺を見くびるな』と書かれている。その墓の前に、十勝、山下、尾根、富崎がいる。

山下 ……して、どうするの、あの役場の二人。

富崎 とりあえず、監禁だな。

十勝 監禁罪ね。あんたまた一つ罪を犯した、ことになる。

富崎 全くだ。

尾根 でも、いつまでも監禁するわけにはいかないし、どうします。

富崎 さあね。

山下 二人が戻らないとなると、役場も騒ぐと思うし。

十勝 警察が押しかけてくるかしら。……ねえ、どうするの？

富崎 俺に聞くな！

尾根 その役場の二人、説得できませんかね。このこと、見なかったことに。

富崎 無理だね。

十勝 いずれにせよ、ここにいる私たちのことは世間に知られる。

山下 結局、また強制退去かしら。

尾根 どうします。

山下 どうしたらいい。

みんなが富崎を見るが、富崎は黙ったまま。

十勝 何か言いなさいよ、富崎！

富崎 何だって俺に聞くんだよ。俺はお前たちと一

緒のただのホームレスだろうが。俺ははただの路上生活者で、自分のことだけで精いっぱい、ただの浮浪者だ。自分一人の生活で、その日その日の食い扶持を心配してきたんだ。腰は年中痛いし、腕は五十肩だし、病気に怯え、孤独に怯え、死に怯えている。不潔で臆病で卑屈で惨めなだけの老人だ。

十勝 そんなことは、いわれなくともわかっている。そう、見ればわかるし、あんたは臭くて、汚くて、間違いなくホームレスよ。でも……。

尾根 富崎さん。富崎さんは『俺に聞くな』といいます。私はあなたに聞きます。元全共闘の幹部リーダーで、六十年代の闘争時代、学生

何百人もが指導者としてのあなたに体を張って従った。そんなあなたに、この危機的状況で、指示を仰ぐことは、当然のことだと思いませんか。

富崎 昔の話だ。

十勝 今は、今この現在は、その昔からつながっているのよ。昔のあんたと、今のあんたが別人なんてことはありえない。

山下 あんたは今も昔も、トミケンと異名をを名乗る闘士さ。

富崎 全共闘なんて、敗北の歴史だ。どんな闘争も一度も体制側に勝ったことはない。この場所もどんなに抵抗したところで、いずれ追い出される。

山下

打たれても打たれても向かって行く、倒されても倒されても立ち上がる、『あしたのジョー』

が全共闘の魂じゃないの。

富崎

……セイさんといったかな。まさかりヤカーを引いたおばちゃんに、『あしたのジョー』

を持ち出されて説教をうけるとはな。……リ

ヤカー？ おセイ？ リヤカーおセイ？

……まさか！ 噂というか、もはや伝説に

なっているが、学生運動華やかな頃、全共闘

において、後方支援部隊というのがあった。

その中で、戦う学生のいるどんな場所にでも、

リヤカーに支援物資を積んで運びこんでくる

女闘士がいた。全共闘の猛者どもは敬愛を込

めて、この女性を、こう呼んでいた、『リヤカーおセイ』と。

日大闘争などの大学内闘争では攻防戦とな

り、機動隊による放水と催涙弾で震えながら

バリケードに身を寄せ合っていた学生たち

に、おセイさんがリヤカーいっぱい食糧や

飲料水を運び込んできた。いったいどうやっ

たら、あの機動隊の警戒包囲網の中、リヤカー

をひいて突破できたのか？ 奇跡を見る思い

で学生たちは、リヤカーを引いてのおセイさ

んの登場に歓声を上げた。学生たちは、この

命がけで運んでくれたおセイさんの握り飯を

感涙にむせびながら頬張ったという。

(セイの前にひざ間付きながら) あんたが、あんたが、あの……『リヤカーおセイ』のおセイさんかい。

山下 昔の話さ。

富崎 (セイに深く頭を下げる)

尾根 マヨさんも、本名が十勝マヨさんですか。

六十年代から七十年代にかけて、アングラ演劇の女王、または反体制演劇の女神と呼ばれた十禅寺マヨという女優がいましたよね。

富崎

おお! 公園や広場にテントを張ったの演劇活動。女郎役で権力者を色香で地獄に落とす『鬼マヨ』こと十禅寺マヨ。あの当時の学生にとつて、着物から垣間見えるマヨの白い肌

は、正直、芝居よりも見入ったものだ。

アングラ劇のスターでありながら、みんなと同じようにヘルメットにタオルで顔を隠して学生運動に参加。運動に参加した学生たちは噂でマヨが参加していると聞き、学生たちはこの何千人の中のどこかにいるマヨと一緒に戦っていることに心ときめかしたものだ。何千人が学生と機動隊で一触発で睨み合っていた時、マヨのマイクを通しての、機動隊に向けられた威勢のいい啖呵は、学生たちをしばれさせ、奮い立たせた。

(回想)

(マイクを通してのマヨの声) てめえら、
 耳の穴かっぽじって良く聞きやがれ！ てめ
 えらの打ち下ろすその警棒にどんな主義主張
 がある。ただ上の命令だからというのなら、
 警察の犬コロと言われても仕方あるまい。し
 かし俺たちの打ち下ろす角材には主義主張が
 ある、おまえらの暴力と一緒にするな。俺た
 ちはな、納得できないんだよ、俺はこのヘル
 メットの小さい頭で死ぬほど考えて考え
 て考えてみた、だけどどうしても今の日本政
 府に納得できない。納得できないから今ここ
 に居る。いいか、人は『パン』のみに生きる
 に非ずだ。おまえらもその警察からの支給品

のヘルメットの中の小さい頭で、考えて考え
 て、そのうえで俺たちを暴力で阻止するとい
 うなら、いいだろう、受けて立とうじゃない
 か。まとめて、かかってきやがれ！

富崎 あんたが、あの……、あの……十禅寺マヨこ
 と、伝説のマヨさんかい。

十勝 昔の話さ。

富崎 なんてこった！（やはり、マヨの前で深く頭
 を下げる）

尾根 すごい！ すごい！ 『トミケン』といい 『リ
 ヤカーおセイ』に『十禅寺マヨ』全学連のス
 ターが勢ぞろいじゃないですか。ここに居る

年寄りたちは年代的にいつても、全共闘の闘士は、まだまだいるかしれない。

富崎 まだいるって、おいおい、どうしようてんだ。

尾根 富崎さん、ここには戦うことを知っている人材が豊富にいます。捨てられた物とはいえ、武器になるものが豊富にある。生活の糧になる物も豊富にある。

富崎 だから？

尾根 ここでなら、我々の主権を主張して戦えます。

富崎 何の主権だ？

尾根 ここに存在することの主権です。

富崎 ……。

山下 いいねえ。

十勝 いいねえ。

尾根 ここに、沖縄中のホームレスを呼び寄せましょう。ネットカフェに寝泊まりしている若者たち、行き場所のないもの、希望を失いかけているもの、沖縄だけでなくネットで全国にも呼びかけましょう。何百人だろうと、何千人だろうと、ここは受け入れ可能な土地だ。

富崎 おいおい、土地には必ず地主がいるぞ。

尾根 土地は住んだものの勝ちです。アメリカ軍は戦後もこの土地に強制的に住み続けた。今度は俺達の番だ。俺たちが住み続けよう。なに、地主への借地代は日本政府が払ってくれる、いままで米軍の代わりに払ってくれたの

だから。ここはフェンスに囲まれた境界もある、ここは俺たちの国だ、俺たちが主権です。その主権を脅かすものには戦いを挑みます。

山下
いいねえ

尾根
集めましょう、全国から、元闘士たちを、失業者という浪人を、フリーターという若者たちを、負け犬と呼ばれた人生を送る人たちを、同志たちを。ここに百八人の英雄が集う梁山泊、全国から浪人が集う大阪の陣にしましょう。

十勝
いいねえ。

富崎
あおう、盛り上がっているところを水を差すようですが。梁山泊も大阪の陣も、結局、時の権力者に潰されましたけど。

山下
だから？

十勝
だから？

富崎
ああ、そうですね、だから何だと。

尾根
富崎さん、今帰仁小五郎さんのお言葉『俺を見くびるな』ですよ。

富崎
……。

尾根
体制側に、時の権力者に、俺達を見くびるなと、いつてやりましょう。

富崎
俺達を……見くびるなか……。

(幕)

ある格納庫の中。テーブルに椅子。富崎、尾根、山下、十勝ら幹部による作戦会議。

尾根 幹部全員に携帯電話を用意してあります。それから各地区代表者にも渡っています。

富崎 たいへん結構なことだけど、この携帯どうやって、我々住所不定では持つことができないはずだが。

尾根 若い人が手に入れてくれました。いろいろ方法があるそうで簡単だそうです。

富崎 ふくん、まあいいや。我々の今いるこの場所を本部と称しますからよろしく。で、各地区移住者はこの闘争を、正直、どう見ている？

一応コンセンサスは取ったのだけど。

十勝 大丈夫、全員賛同しています。年寄り達は一挙に若返ったみたいに興奮しているし、若者たちは面白がっているみたいです。みんな戦う気、満々です。

富崎 まあ、あまりお祭り気分も困るが。次に新参者の受け入れ状況は。

尾根 続々って感じですね。インターネットでの呼びかけが効いています。アクセス数が五十万件を超えたそうです。全国どころか、全世界が注目しそうです。こういうネットの情報はTVなどのマスコミでも取り上げられたら、とんでもないことになりそうです。革命さへ

起こりかねないのですから。

富崎 う〜ん、我々の年代では未知なる世界だ。

十勝 私、考えたのですけど、この基地内だけで闘争するより、基地の外でも活動した方が、援護になると思います。

富崎 なるほど、採用。マヨさんが、その外組みの人選とオルグ活動できますか。

十勝 了解。

富崎 四か所あるゲートは、どうした。

尾根 バリケードするよう指示してあります。

富崎 他の出入り口は？

尾根 例外はありますが、全部閉じるようにしてあります。

山下 私のリヤカーの出入りはどうするの。

尾根 絶対に見つかりそうもない出入り口を確保してあります。おセイさんのリヤカーはそこを利用して下さい。

富崎 おセイさんの食糧確保のための後援部隊が、今一番重要だ。我々のネットク、弱点は、籠城のための必要な食糧だ。

山下 はい、基地内の全員からカンパをもらっています。ホームレスもフリーターの若者も全員があっさり全財産を提供してくれます。

尾根 富崎さんは、戦闘の長期化を狙っているんですね。

富崎 もちろんだ。長期化すればするほど我々に有利だ。マスコミが注目し、全国が、世界が注

目してくれたら、必ず支援者が出てくる。逆に、短期で警察に制圧されたら、それまでだ。南区からの提案ですけど、周辺フェンスに電流を流したらどうだということですが。

富崎 できるのか、そんなこと。

十勝 ホームレスの中に、引退した電気の技術者がいるそうです。

富崎 結構だ、その技術者を後でここに呼んでくれ、具体的に検討しよう。

山下 電流なんて、今、爆弾を製造しているのに。

尾根 それなんですか、とりあえず元過激派の爺さんの指導のもとオタクの若い奴らに作らしていますか、これをどう利用するつもりですか？

富崎 心配するな、脅しと警告だ。警官や機動隊が、

うかつに入ってこられないように。

尾根 でも、あまり過激にやりすぎると、向こうは自衛隊まで出てきたらどうします。

富崎 こちらも戦車で対抗するさ、張りぼてだけ。ミサイルも並べて見せよう、張りぼてだけ。

尾根 そうなると、富崎さんは我々と警官隊で睨み合いが続くと、その長期化を狙っていますね。

富崎 そうさ、警官隊が危険を冒して、あえて突入する理由が今のところ無い。まだ手を付けていない、ただの空き地が占有されているだけだからな。しかも汚染されている地域だし。

尾根 人質もいますしね。

富崎 いや、あの役場職員の人質は、時間稼ぎのために留め置いているだけで、すぐに開放する。この人質のために警官隊の突入の理由付けになっては困る。

尾根 なるほど、それもそうですね。人質には、必ず近いうちに開放すると、私の方で言い聞かせましょう。人質を監視しているのは、小倉たちですか。

山下 いや、彼らは例の爆弾作りに励んでいます。

だから監視は、最近やってきた体育系のオタクフリーターに任してあります。

尾根 体育系のオタクですか？

山下 それが、フリーターの中に格闘技オタクとか、

ミリタリーオタクが居るそうよ。

十勝 彼らは、それなりに体鍛えているから、兵隊として打って付けなのよね。

富崎 まったく、我々全共闘世代も、オタク世代も、実に使い勝手がある。

十勝 (小さく笑う) 警察は、私たちの排除を軽く考えていると、痛い目を見るわね。

山下 世間も驚くわよ。

尾根 それでは、各地の出入り口の点検に行つて来ます。(尾根、大げさに敬礼して退場)

十勝 私は、外組の組織作り行つてきます。(これもまた大げさに敬礼して退場)

山下 私は食糧その他の調達に行つてきます。(同

じく大げさに敬礼して退場。）

富崎一人残こる。（長い間）。富崎、タバコを一服。突然、携帯電話の着信音。

富崎 はい、富崎だ。

尾根 （電話の声） 尾根です。まずいことになりました。

富崎 どうした？

尾根 （電話の声） 監禁した役場の二人が、逃亡しました。

富崎 何だと！ 今、逃げられると困るぞ、こちらは戦闘態勢の準備ができていない。捜せ、何としても、捜しだせ！

尾根 （電話の声） いえ、そういうことではなく。

……身柄は確保してあります。

富崎 ん？ どういうことだ。

尾根 （電話の声） 逃げた役場の二人ですが、ひどい暴行を受け、……二人とも重傷です、うち一人は意識もありません。

富崎 暴行。

尾根 （電話の声） 若い奴らが、逃亡を阻止するために。

富崎 くそう！ とりあえず手当をしろ。

尾根 （電話の声） 手当といっても、至急、救急車を呼ぶべきかと……。

富崎 馬鹿が。この基地の中に救急車が呼べるか。呼んだら騒ぎになるし、それに仮に呼んだと

しても、車が通れるゲートはバリケードをしている。コンクリートを流し込んだのバリケードだ、もはや開閉できない。

尾根 (電話の声) でも重症なんですよ、我々の応急手当ぐらいでは、どうにもなりません、病院に運ばなければ。

突然、遠くで爆発音、振動。一瞬の暗闇。

富崎 何だ？ 今の音は……。

尾根 (電話の声) もしもし、もしもし、何です、今の音と地響きは？

富崎 待て尾根、キヤッチホンだ、しばらく待て。(電

話切り替えて) もしもし何だ。

小倉 (電話の声) 小倉です。

富崎 今の爆発音の件か、どうした。

小倉 (電話の声) 事故です。爆弾が破裂、爆弾の製作中に破裂。崎間の爺さんや、川奈が、吹っ飛んで、……血が、血が飛び散って、……

肉が、肉が。……ちくしょう！ このスニーカーは川奈のものだ、足首が付いたままだ。

富崎 おい、小倉、聞こえるか、しっかりしろ！

小倉 (電話の声) タマゴだ！ タマゴがいる！

血だらけだ。顔が！ 顔が！ 誰か！ 救急車を！

富崎 小倉！ とにかくすぐに応援に行く、待っている！ (電話を切り替える) もしもし

尾根！　すぐに西区に行け！小倉たちが事故った。

尾根　（電話の声）でも、こちらはどうします？

富崎　その若い奴らに任せろ。起きた事は仕方が

無い、全てを隠し通すことにする。証拠隠

滅だ。一切を隠滅する。

尾根　（電話の声）隠滅って？

富崎　爆弾の破裂が事故なら、そこで起きた事も事

故だと、止むを得ないこととして証拠をすべ

て隠滅するように言え。

尾根　（電話の声）隠滅の意味がわかりません。

富崎　そこまで、俺に言わすのか！

尾根　（電話の声）言ってくください！　ごまかさず

に！　証拠とは二人の重症者のことであり、

隠滅とは殺して隠せという意味だと。

富崎　腹をくくれ、尾根！　もう俺たちは、毒を食

らえば皿までもだ。もう、後戻りはできない。

尾根　（電話の声）いいえ！　いいえ！　止むを得

ないという言葉が、かつての俺達、活動家を
駄目にした。かつて活動家であることは、世
間ではおおっぴらではないが、それなりに認
められていた。学生達の私利私欲でない、日
本のために体を張っていることに好意的だっ
た。近所のおばちゃんたちが、商店街のおっ
ちゃんたちが、どちらかというと商売の邪魔
になるだけのデモ隊の俺達活動家を警察から
匿ってくれた。機動隊から逃げ回り、離れの

物置に隠れても、その住人は見て見ぬふりをしてくれた。傷を負った活動家を、町医者が金もとらずに治療してくれた。活動へのカンをサラリーマンが黙って一万円も渡してくれた。両親は死ぬほど息子のことを心配しながらも、息子のデモ参加の意思を認め、怪我を負ったら必ず病院で診てもらえと息子の手に金を必死に握らした。それが、内ゲバが明るみに出てから、止むを得ない、革命に至るまでの犠牲者であると。その犠牲者が頻出したことから、世間の俺達、活動家を見る目が変わっていった。百八十度変わったんだ。

富崎
尾根！

尾根 (電話の声) 嫌だ、絶対に嫌だ、二度とこの轍は踏まない。二度と止むを得ない犠牲者とは言わせない。

富崎 わかった、わかったから好きにしろ。しかし今は、小倉たちが心配だ。俺は西区に向かう、しかし、尾根！ 言っとくが、俺はどんな状況であろうと闘争はあきらめんど。俺は今、こんな時でも充実している。俺は最後の一人になるうとも戦い続ける。(電話を切り退場・溶暗)

舞台、誰もいない暗闇の中、電話の会話。

尾根 (着信音) もしもし、おセイさんか。至急、頼みがある。

山下 はいよ、何だい。

尾根 役場の二人が重傷を負った。おセイさんのリヤカーで病院まで運んで欲しい。何とか二人を助けてやってくれ、頼む！

山下 あんたねえ、そこから病院まで、どのくらいの距離があると思っっているの。私の歳を知っている、昔と違うのよ。尾根 歳のことは言わない約束だろう。二人を助けることは、俺達のこの活動の意義を問われることだ。頼む、無理を承知で、走ってくれ、おセイさん！

山下 ……ふん。あんたの、その頼み、沖縄の方言

で答えようか。

尾根 なんだった？ 沖縄の方言？

山下 (力強く) まかちよーけ。

(暗転)

エピローグ (映像)

音楽、闘争シーンの映像にテロップが入る。

尾根高志 (五十九歳)、最後まで車の中に立て籠もり抵抗するも、機動隊に車から引きずり

出され逮捕される。

小倉秀志（三十二歳）、最後はミサイルの先端に登りつめて抵抗、途中落下し、両足骨折、病院にて治療後に逮捕される。

十勝マヨ（六十八歳）、最後までマイクで糾弾しつつ、彼女を守る老人親衛隊と共に逮捕される。

山下セイ（六十六歳）、基地の外に居たが、嘉手納警察署に出頭、身柄を確保される。

富崎英顕（六十八歳）、この一連の事件の首謀者と見られるが、全共闘くずれで、逃げケンの異名を取り、現在も逃走中。

川奈倅一（二十六歳）、三関蘭（二十五歳）、山崎善三（六十七歳）の三人は爆弾暴発によ

る死亡が確認されている。

なお、安否が問われていた役場職員の名国場康熙（四十一歳）と玉城清孝（二十三歳）は、病院にて治療中。命に別状はないもよう。

（幕・了）